

目標設定について

1. 計画期間

2012年度～2020年度とする。

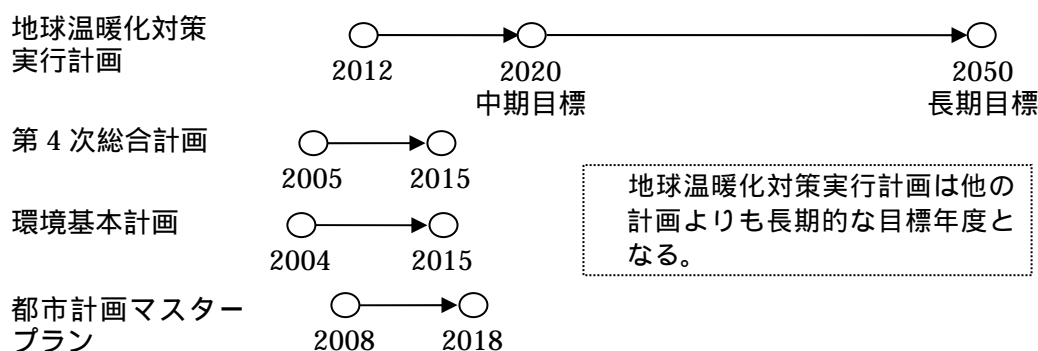
2. 基準年度

1990年度とする。

3. 目標年度

中期目標を2020年度、長期目標を2050年度とする。

図 茨木市における関連計画の計画期間



4. 目標設定について

(1) 部門による対象の区分と目標設定に用いる指標の単位について

産業部門のうち市独自のマネジメントが困難な大企業*は国・府のマネジメント領域と考え、市独自の目標設定の対象外とする。

(茨木市における大企業による排出は、2008年度の総排出量の約23%を占める。)

*) 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度の対象となる特定排出者(一定以上の温室効果ガスを排出する事業所を所有する事業者等)

人口の増減・産業の拡大縮小による影響を除くため、産業部門のうち大企業を除くもの・民生部門・運輸部門・廃棄物部門については、人口・製造品出荷額・床面積等单位あたりの排出量について設定する。

表 部門による対象の区分と目標設定に用いる指標の単位について

部門		対象	単位
産業部門	大企業	温対法の対象となる特定排出者	t-CO2(総量)
	その他	その他	t-CO2 / 製造品出荷額
民生家庭部門	民生家庭部門	茨木市民	t-CO2 / 人
民生業務部門	民生業務部門	市内事業所	t-CO2 / 床面積
運輸部門	自動車旅客	茨木市民	t-CO2 / 人
	自動車貨物	市内事業所	t-CO2 / 製造品出荷額
廃棄物部門	家庭系	茨木市民	t-CO2 / 人
	事業系	市内事業所	t-CO2 / 床面積

(2) 削減率の水準について

国の試算結果に準ずる水準とする。

なお、国の試算結果「中長期ロードマップを受けた温室効果ガス排出量の試算」(平成22年3月)は下記の通り。国の試算では総量ベースの削減率のみ設定されているが、各年度の固有単位をもとに、固有単位量あたり排出量ベースでの削減率を算出した。

表 「中長期ロードマップを受けた温室効果ガス排出量の試算」での削減率*1

部門	総排出量 (百万 t-CO2/年)			固有単位量あたり排出量 (t-CO2/年)		
	1990年	2020年	2020年の削減率 (1990年比)	1990年	2020年	2020年の削減率 (1990年比)
産業部門(大企業)*2	368	294	20%	-	-	-
産業部門(その他)*2	114	91	20%	0.354	0.222	37%
民生家庭部門	127	81	36%	1.027	0.660	36%
民生業務部門	164	120	27%	0.128	0.063	51%
運輸部門(自動車旅客)*3	108	78	27%	0.871	0.639	27%
運輸部門(自動車貨物)*3	109	80	27%	0.338	0.194	43%
廃棄物部門(家庭系)*4	141	111	22%	1.144	0.901	21%
廃棄物部門(事業系)*4	61	47	22%	0.047	0.025	48%
合計	1,192	902	26%			

*1) 国際貢献・吸収源を含まない産業マクロフレーム固定ケースの値を引用。

*2) 産業部門の排出量のうち、大企業とその他の割合は、2008年度における割合を適用(45:14)。

*3) 運輸部門の排出量のうち、自動車旅客と自動車貨物の割合は、1990年度における割合を適用(49.6:50.4)。

*4) 廃棄物部門の排出量のうち、家庭系と事務系の割合は、近年の傾向を鑑み7:3とした。

表 使用した固有単位量

固有単位の種類	数値		備考
	1990年	2020年	
人口(人)	123,611,000	122,734,996	1990年は実績値。2020年は国立社会保障・人口問題研究所による推計結果を使用。
床面積(m ²)	1,285,000,000	1,920,000,000	「中長期ロードマップを受けた温室効果ガス排出量の試算」で設定されている値を使用。
製造品出荷額(百万円)	323,372,602	410,989,985	1990年は実績値。2020年は「中長期ロードマップを受けた温室効果ガス排出量の試算」で設定されている各年度の素材生産量の数値と鉱工業生産指数を用いて、1990年実績値より推計。

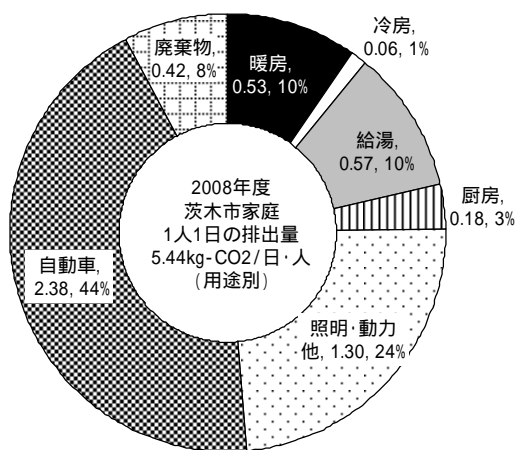
参考：温室効果ガス排出量内訳

1. 茨木市の家庭から排出される排出量の内訳（2008年度）

2008年度排出量の家庭部門の1日1人あたりの排出量の内訳を下記に示す。

なお、暖房、冷房、給湯、厨房、照明・動力他の内訳は、家庭部門の排出量を2009年度全国データの内訳をもとに算出。

図 2008年度家庭からの1日1人あたりの排出量（kg-CO2/人・日）

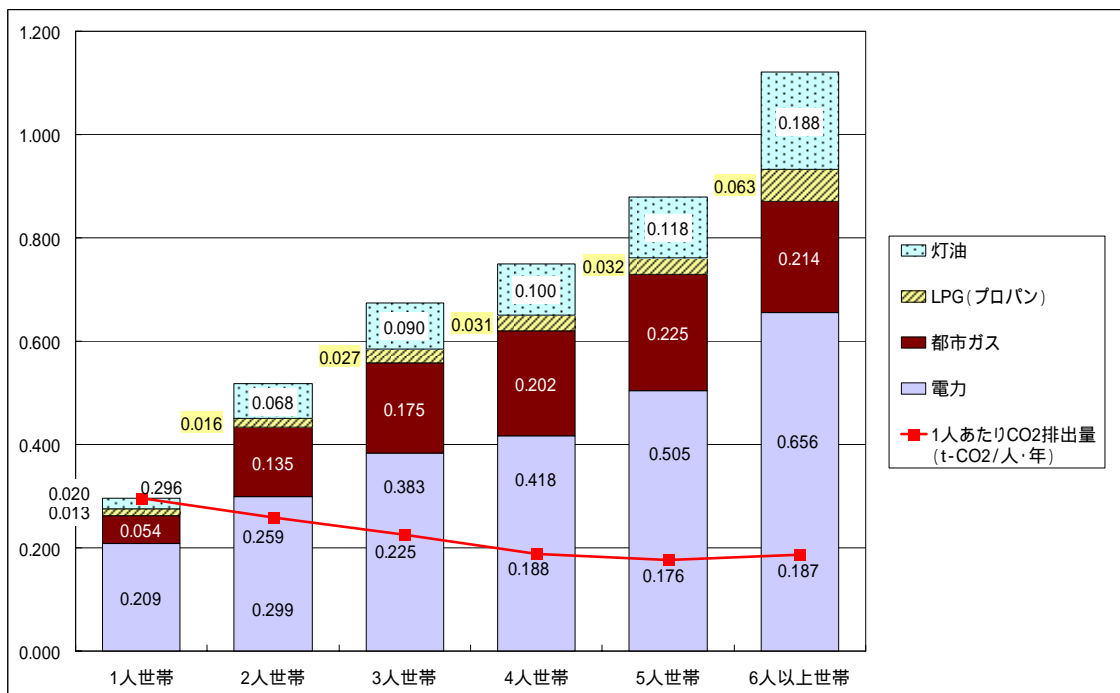


冷房・暖房(1997年時)	1.5～2時間のフル運転運転
冷房・暖房(2006年時)	2～3.5時間のフル運転運転
調理強火	1.3時間
調理トコ火	17時間
お風呂をわかす	1～2回
お湯を使う	200L(お風呂1回相当)
シャワー	13分
大型プラズマテレビ	5～6時間
デスクトップ型パソコン	25時間
ノートパソコン	50～200時間
1.8L級軽自動車	都市部3km、郊外5km
プリウス	都市部4km、郊外6km
電車	都市部6km、郊外9km
ペットボトル購入(500ml)	7本
レジ袋	60枚

世帯人数別 1日1人あたりの排出量

世帯人数が多いほど、排出量は少なくなる。

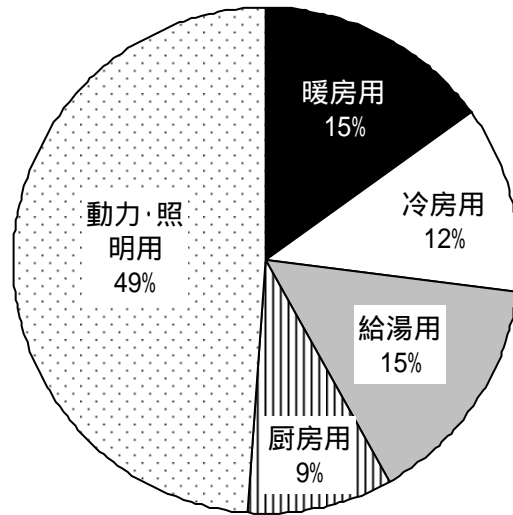
図 世帯人数別 1日1人あたりの排出量（2004年度、全国標準値）



出典：日本建築学会環境系論文集第583号（2004年9月）：長谷川善明、井上隆「全国規模アンケートによる住宅内エネルギー消費実態に関する研究」より環境省作成

2. 業務用排出量の内訳（2008年度、全国データ）

動力・照明用が最も多く約50%を占める。次に、暖房、給湯用、冷房用、厨房用と続く。



出典：エネルギー白書 2010